

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	サンビレッジ国際医療福祉専門学校
設置者名	社会福祉法人 新生会

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	夜・通信	160 時間	160 時間	
医療専門課程	作業療法学科	夜・通信	15 単位	9 単位	
医療専門課程	言語聴覚学科(旧)	夜・通信	4 単位	9 単位	
		夜・通信	8 単位		
医療専門課程	言語聴覚学科(新)	夜・通信	9 単位		
(備考) 言語聴覚学科 2025 年度入学生より新カリキュラムとなる					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校受付にてシラバス閲覧

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	サンビレッジ国際医療福祉専門学校
設置者名	社会福祉法人 新生会

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	教育課程編成委員会
役割	下記事項に関して把握・分析し、専門的な検討を行い、教育課程の編成等についての意見を校長へ提言する。 (1) 学生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向 (2) 国又は地域の産業振興の方向性 (3) 新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能等 外部委員の定数は4名以上とし、委員の委嘱は校長が行う。

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考(学校と関連する経歴等)
介護福祉士	2024. 4. 1～2026. 3. 31	企業関係者
一般社団法人 岐阜県作業療法士会理事	2024. 6. 1～2026. 3. 31	職能団体役職者
言語聴覚士	2024. 4. 1～2026. 3. 31	職能団体役職者
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	サンビレッジ国際医療福祉専門学校
設置者名	社会福祉法人 新生会

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 学科会議及び運営会議にて前年度の課題とその対策について話し合い、次年度の方針を決定する。その後教務担当者が科目担当者に共通フォーマット及び科目概要を作成し、授業担当者に提示する。授業担当者は具体的な授業計画・評価方法等について記載する。授業担当者は2月を目途に提出する。教務担当者が確認・整理し、総学科長・校長が確認後作成する。 公表 毎年度3月に作成し、4月に学生に配布している。</p>	
授業計画書の公表方法	学校受付にてシラバス・学生便覧閲覧
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価は、出席態度・学科試験・実技試験・発表・レポートなどを踏まえ、総合的に判断する。 80点以上：優 70点以上：良 60点以上：可 60点未満：不可 実習(介護実習、臨床実習)の成績は、実習指導者からの評価、提出された記録、レポートのほか、実習報告等により学科会議において総合的に評価する。 学科試験においては、出席回数が講義数の3分の2に満たない者、実習(介護実習、臨床実習)においては、原則各実習時間の5分の4に満たない者については、評価をしない。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価は、出席態度・学科試験・実技試験・発表・レポートなどを踏まえ、総合的に判断する。 授業終了後、上記方法で算出した成績が不合格(60点未満相当)の場合、原則として再試験を実施する。再試験が60点以上の場合を合格とし、最終得点を60点とする。 成績分布は当該年度のすべての科目の最終得点の平均値をもって行う。ただし、優・良・可・不可によって評価される科目については優：90点 良：75点 可：65点とする。ただし、不可の場合は、その下位評価などを参考に適切と思われる得点を授業科目担当者が決定する。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学校受付にて学生便覧閲覧

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業はすべての授業科目及び最終学年の総合試験の合格を要件とする。 上記要件を満たした者について、学科試験及び実習（介護実習、臨床実習）の成績並びに日常の修学状況等を総合して学校運営会議の議を経て校長が認定する。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	学校受付にて学生便覧閲覧

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	サンビレッジ国際医療福祉専門学校
設置者名	社会福祉法人 新生会

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.sun-village.jp/publics/index/72/
収支計算書又は損益計算書	https://www.sun-village.jp/publics/index/72/
財産目録	法人本部窓口にて閲覧
事業報告書	https://www.sun-village.jp/publics/index/72/
監事による監査報告（書）	https://www.sun-village.jp/publics/index/72/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・福祉分野		教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1876 単位時間	1272 単位時間	140 単位時間	464 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1876 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		72 人	48 人	5 人	44 人	49 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>学科会議、及び運営会議にて前年度の課題とその対策について話し合い、次年度の方針を決定する。その後教務担当者が科目担当者に共通フォーマット及び科目概要を作成し、授業担当者に提示する。授業担当者は具体的な授業計画・評価方法等について記載する。授業担当者は2月を目途に提出する。教務担当者が確認・整理し、総学科長・校長が確認後作成する。</p> <p>公表 毎年度3月に作成し、4月に学生に配布している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、出席態度・学科試験・実技試験・発表・レポートなどを踏まえ、総合的に判断する。</p> <p>80点以上：優 70点以上：良 60点以上：可 60点未満：不可</p> <p>60点以上を合格とする。</p> <p>「医療的ケアⅠ・Ⅱ」の成績評価は、筆記試験と演習試験によって行う。はじめに筆記試験を行い、その得点が90点以上に達した場合に演習試験を受けることができる。演習試験100点で合格とする。なお、当該科目評価は筆記試験及び演習試験合格に至</p>

<p>る受験回数および態度を基に行う。すべて初回で合格となった場合には、筆記試験得点が評点となり、回数を重ねごとに減点する。</p> <p>介護実習の成績は、実習指導者からの評価、提出された記録、レポートのほか、実習報告等により学科会議において総合的に評価する。</p> <p>学科試験においては、出席回数が講義数の3分の2に満たない者、介護実習においては、実習時間の5分の4に満たない者については、評価をしない。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>進級は、不可科目が1科目以内、「生活支援技術A」「介護実習」のいずれも合格を要件とする。</p> <p>卒業はすべての授業科目及び最終学年の総合試験の合格を要件とする。</p> <p>進級・卒業は、上記要件を満たした者について、学科試験及び介護実習の成績並びに日常の修学状況等を総合して学校運営会議の議を経て校長が認定する。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>学校、学科全体の方針とあわせ、学生個々の課題(学習面や生活全般、心理面など)に対する個別方針を立て、対応を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
31人 (100%)	人 (%)	31人 (100%)	人 (%)
(主な就職、業界等) 特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、障害者支援施設			
(就職指導内容) 就職情報の閲覧、個別相談対応、必要に応じて提出書類の確認や面接指導を行う。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 介護福祉士国家試験受験資格 専門士(教育・社会福祉専門課程)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
69人	3人	4.3%
(中途退学の主な理由) 学業や実習を通し、学生自身が職業適性に疑問を感じた為。また、他の職種に興味関心が高まった為。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 面接を重ね内省を促したり、学業や実習での課題について学生・教員で共に検討したりして課題解決に向けた取り組みを行っている。また、中退を決意するに至った者についても、その後の進路についての相談対応を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		医療専門課程	作業療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	旧 3230 単位時間／ 108 単位 新 3218 単位時間／ 108 単位	1760 単位時間 ／72 単位	210 単位時間 ／7 単位	1220 単位時間 ／28 単位	0 単位時間 ／0 単位	40 単位時間 ／1 単位
			1748 単位時間 ／72 単位	210 単位時間 ／7 単位	1220 単位時間 ／28 単位	0 単位時間 ／0 単位	40 単位時間 ／1 単位
			旧 3230 単位時間／108 単位 新 3218 単位時間／108 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		28人	0人	6人	57人	63人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>学科会議、及び運営会議にて前年度の課題とその対策について話し合い、次年度の方針を決定する。その後教務担当者が科目担当者に共通フォーマット及び科目概要を作成し、授業担当者に提示する。授業担当者は具体的な授業計画・評価方法等について記載する。授業担当者は2月を目途に提出する。教務担当者が確認・整理し、総学科長・校長が確認後作成する。</p> <p>公表 毎年度3月に作成し、4月に学生に配布している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、出席態度・学科試験・実技試験・発表・レポートなどを踏まえ、総合的に判断する。</p> <p>80点以上：優 70点以上：良 60点以上：可 60点未満：不可</p> <p>臨床実習の成績は、実習指導者からの評価、提出された記録、レポートのほか、実習報告等により学科会議において総合的に評価する。</p> <p>学科試験においては、出席回数が講義数の3分の2に満たない者、臨床実習においては、実習時間の5分の4に満たない者については、評価をしない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級は、不可科目が1科目以内、かつ当該学年の専門分野の授業科目のすべての合格を要件とする。</p> <p>卒業は各学科のすべての授業科目及び最終学年の総合試験の合格を要件とする。</p> <p>進級・卒業は、上記要件を満たした者について、学科試験及び臨床実習の成績並びに日常の修学状況等を総合して学校運営会議の議を経て校長が認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>学校、学科全体の方針とあわせ、学生個々の学習課題（国語・認知特性・論理的思考など）を探り、生活全般へのアドバイスと並行しながら個別対応している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8人 (100%)	0人 (0%)	6人 (75%)	2人 (25%)
(主な就職、業界等) 総合病院、総合ケアセンター			
(就職指導内容) 就職情報の閲覧、個別相談対応、必要に応じて提出書類の確認や面接指導を行う。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 作業療法士国家試験受験資格 専門士（医療専門課程）			
(備考)（任意記載事項） 作業療法士として就職：5名 国家試験不合格となり、介護福祉士として就職：1名 国家試験不合格となり、アルバイトをしながら受験勉強中：2名			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 面接を重ね内省を促したり、学業や実習での課題について学生・教員で共に検討したりして課題解決に向けた取り組みを行っている。また、中退を決意するに至った者についても、その後の進路についての相談対応を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		医療専門課程	言語聴覚学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	旧 3130 単位時間/ 105 単位 旧 3042 単位時間/ 106 単位 新 3286 単位時間/ 121 単位	2193 単 位時間/ 77 単位	345 単位 時間/12 単位	540 単位 時間/14 単位	0 単位時 間/0 単 位	52 単位 時間/2 単位
			2093 単 位時間/ 77 単位	357 単位 時間/13 単位	540 単位 時間/14 単位	0 単位時 間/0 単 位	52 単位 時間/2 単位
			2178 単 位時間/ 86 単位	456 単位 時間/18 単位	600 単位 時間/15 単位	0 単位時 間/0 単 位	52 単位 時間/2 単位
			旧 3130 単位時間/105 単位 旧 3042 単位時間/106 単位 新 3286 単位時間/121 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		22人	0人	6人	52人	58人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>学科会議、及び運営会議にて前年度の課題とその対策について話し合い、次年度の方針を決定する。その後教務担当者が科目担当者に共通フォーマット及び科目概要を作成し、授業担当者に提示する。授業担当者は具体的な授業計画・評価方法等について記載する。授業担当者は2月を目途に提出する。教務担当者が確認・整理し、総学科長・校長が確認後作成する。</p> <p>公表 毎年度3月に作成し、4月に学生に配布している。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>成績評価は、出席態度・学科試験・実技試験・発表・レポートなどを踏まえ、総合的に判断する。</p> <p>80点以上：優 70点以上：良 60点以上：可 60点未満：不可</p> <p>臨床実習の成績は、実習指導者からの評価、提出された記録、レポートのほか、実習報告等により学科会議において総合的に評価する。</p> <p>学科試験においては、出席回数が講義数の3分の2に満たない者、臨床実習においては、実習時間の5分の4に満たない者については、評価をしない。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>進級は、不可科目が1科目以内、かつ当該学年の専門分野の授業科目のすべての合格を要件とする。</p> <p>卒業は各学科のすべての授業科目及び最終学年の総合試験の合格を要件とする。</p> <p>進級・卒業は、上記要件を満たした者について、学科試験及び臨床実習の成績並びに日常の修学状況等を総合して学校運営会議の議を経て校長が認定する。</p>

学修支援等
(概要) 学校、学科全体の方針とあわせ、学生個々の課題（学習面や生活全般、心理面など）に対する個別方針を立て、対応を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7人 (100%)	0人 (%)	7人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 急性期総合病院、回復期病院、維持期病院、放課後デイサービス			
(就職指導内容) 就職情報の閲覧、個別相談対応、必要に応じて提出書類の確認や面接指導を行う。			
(主な学修成果（資格・検定等） 言語聴覚士国家試験受験資格 専門士（医療専門課程）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	1人	4.2%
(中途退学の主な理由) 学業や実習を通し、学生自身が職業適性に疑問を感じた為。また、他の職種に興味関心が高まったため。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 面接を重ね内省を促したり、学業や実習での課題について学生・教員で共に検討したりして問題解決に向けた取り組みを行っている。 また、中退を決意するに至った者についても、その後の進路についての相談対応を行っている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	施設設備費	教育 充実費	実習費	合計	備考(任意 記載事項)
介護福祉学科	200,000円	650,000円	50,000円		50,000円	950,000円	
作業療法学科	200,000円	650,000円	200,000円	50,000円	200,000円	1,300,000円	
言語聴覚学科	200,000円	650,000円	200,000円	50,000円	200,000円	1,300,000円	
修学支援(任意記載事項)							
<p>1. 入学金特待制度 入学試験に合格した学生のうち、出願時までの高校皆勤であった者及び入学試験の成績優秀者の入学金を減免し、修学を支援する。各100,000円</p> <p>2. 新生グループ奨学金制度</p> <p>(1) 実践力向上奨学金 新生グループ内でアルバイトをする者のうち、卒業後新生グループに就業することを希望する者に対し、一定の能力があると認められ月間一定時間以上アルバイトをした場合に、働いた時間に応じて10,000円～30,000円/月を給付する。</p> <p>(2) 今村勲記念奨学金 卒業後、新生グループに就業することを希望し内定を得た者に対し奨学金を貸与し、修学を支援する。 ・介護福祉学科：30,000円/月 ・作業療法学科・言語聴覚学科：60,000円/月 卒業後、国家資格を取得し、新生グループにて一定期間就業すれば奨学金の返還が免除される。</p>							

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
学校受付にて自己評価結果閲覧
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)
<p>サンビレッジ国際医療福祉専門学校の学校関係者評価委員会を設置。委員の定数は4名以上で、職能団体役職者や介護等営業所所長、卒業生等で構成される。</p> <p>主な評価項目は学校運営や教育活動、学習成果や学生支援などについてである。自己評価の結果を受け、評価と提言を行う。</p> <p>学校関係者評価結果については教職員で共有し、校長、総学科長、学科主任が中心となって改善策を検討する。提言を受けて策を講じた結果は委員会の場で報告している。さまざまな意見を参考にし、検討を重ねながら教育活動及び学校運営等の質の向上に継続的に努めている。</p>

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
介護等営業所 課長	2024. 4. 1～2026. 3. 31	企業関係者
作業療法士	2024. 6. 1～2026. 3. 31	企業関係者
言語聴覚士	2024. 4. 1～2026. 3. 31	企業関係者
介護福祉士	2024. 4. 1～2026. 3. 31	卒業生
作業療法士	2024. 4. 1～2026. 3. 31	卒業生
言語聴覚士	2024. 4. 1～2026. 3. 31	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://sunvi-college.jp/features/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		
作業療法学科及び言語聴覚学科 2022. 3. 31 一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構認定 (2022/4/1～2027/3/31)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://sunvi-college.jp/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H121340400012
学校名 (〇〇大学 等)	サンビレッジ国際医療福祉専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	社会福祉法人 新生会

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		-	-	-
内 訳	第Ⅰ区分	-	-	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅱ区分	-	-	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅲ区分	-	0人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	0人	0人	
区分外 (多子世帯)	0人	0人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				0人 (0) 人
合計 (年間)				-
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当)	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	0人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。